

2016 年

# Johns Hopkins Hospital Elective Clerkship 体験記

M4 Female

NEC

[日付を選択]

## はじめに

年々先輩方の体験記が充実してきていますが、私はそれほど「自分語り」が得意ではない上、実習や現地での生活についての感じ方は人によってかなり異なる、ということを実感したので、できるだけ客観的なことのみ、何があったか、ということだけを書こうと思います。その中でも、私が特に有用であるだろう、と感じた情報に絞って書きたいと思うので、ここに載っていない情報についてはこれまでの先輩方の体験記を参考にしてください！（ところどころどうしても入れたかった私情が入っていますが…ごめんなさい><）

また、私がこの実習をするにあたって、昨年ホプキンスで実習をされた松田先輩に大変お世話になりましたので、私も先輩同様、何か質問のある後輩がいれば、是非お答えしたいと思っています！その際にはこのメールアドレスに連絡を下さい。（[email.elective@gmail.com](mailto:email.elective@gmail.com)）この体験記はネットに掲載されるということで、名前も顔も出しくなくて、何とも殺風景なものになってしまいましたが、関心のある方のお役に立てれば幸いです。

## 大まかなスケジュール

5月末～6月初め	校内選考申請書締切
6月初め	校内選考 interview…①
1週間ほどで	選考結果発表
決定後すぐ	USMLE step1 申し込み…②
	<b>★予防接種や抗体結果証明書の準備開始★</b>
9月初め	USMLE step1 受験
10月初め	step1 結果発表
結果発表と同時に	ホプキンス側に提出する申込書の締切
12/18…③	Rheumatology 受け入れ OK のメールが来る
ただちに	宿・航空券の手配、VISA の申請（残高証明書などの申し込み）④

- ① あまり詳しい事は書けませんが、面接ではやはり緊張しますので、模範解答のようなものを予想してどんなに準備したつもりになっていても、本番では頭の中が真っ白になって、自分の素のコミュニケーション力や英語力が出ると思います。実際、ホプキンスの患者さんからしてみれば、英語もまともに話せないような人に問診などされたくないだろうな、と思いますので、普段からしっかり英語を話す訓練をしておくとういことだと思います。
- ② USMLE の ID 申請には 2 つのステップがあります。1) USMLE/ECFMG Identification Number を取得する段階と、2) 貰った ID を使って実際の試験の日程を決める、の 2 つです。「ホプキンスに行けるかどうかわからなくても、どっちにしろ step1 を取るつもりで

ある」という人は1つめのステップは校内選考の前に済ませておくといいかもかもしれません。皆が受験を予定する8月末～9月にかけてはすぐに予定が埋まるので、1週間ほど時間を要する一つ目のステップに時間を取られてはもったいないです。校内選考の内定を貰ってからすぐにstep1の日程も決められた方がいいと思います。

- ③ 返事の目安は18日、と考えた方がいいかもしれません。(先輩の話なども合わせて考えると。)それまでに返事がない場合には、3月に申請しなすか、他の所にアプライする準備をし始めた方がいいかと思います。
- ④ 受入OKの返事が来ないと不安になって、宿の手配やVISAの申請は返事を待たずにもう先にしてしまっておいた方がいいんじゃないか、とか考えたりもしましたが、結局受け入れ確定後で全然大丈夫でした。宿(929buildingというホプキンス生専用の寮、病院からとても近くてきれい!)は全然空いていましたし、VISAを取る枠も空いていました。あんまり心配しなくてもいいんじゃないかと思います。ただ、私がVISAの面接を受けたのは1/8で年始だったので、人が少なかったのかもかもしれません。ですが、直前になると意外とキャンセルが出て枠が空いているという話も聞いたので、やはりそれほど心配しなくていいかと思います。

実際のVISA面接ですが、ホプキンスに行く人は、B-1/B-2 VISA申請のために必要な既定の書類と、ホプキンスから受け入れ確定時にメールに添付されている「B-1/B-2 VISA この子に取らせてあげてね」みたいな文書を持っていけば難なく通ります、ご心配なく。

## 実際の実習の様子

2/2～3/7までジョンスホプキンス大学病院のリウマチ科での実習を行いました。

### 最初の4週間@コンサルトチームでの実習

コンサルトチームは一番上がAttending(おーべん)、その次がFellow(中べん)、その下に私、というのが基本体制で、週に一回ほどそこにinternやresident(研修医)が来る、という感じでした。AttendingとFellowは2週間ごとに交代で、Attendingによって、回診のやり方が全く異なりました。ある一人の先生がattendingだった時は、コンサルされた患者は毎日回診で回り、気になる画像検査の結果があれば、放射線科まで行って一緒に議論することもありました。かたや一人の先生は、回診はさらっと終わらせる、というスタイルをとっていました。ですが、どちらの先生についてもいえることは、沢山discussionの時間を取ることだったと思います。患者さんの病態について議論するのはもちろんのこと、それに関連する論文を皆でシェアし、議論しました。論文も臨床論文に限らず、基礎研究の論文もです。これだけ幅広い議論を

し、知識を蓄えてこそ、ここでの医療は成り立っているんだな、と実感しました。因みにホプキンスの Rheumatology は全米の Rheumatology でもずーっとランキングが1位だそうで、先生たちは皆首から「Best of Best 2005(?) - 2015(?)」みたいなストラップをかけていて、いいな～私もあれ着けたいな～と思っていました。笑

実際の私の業務ですが、最初の4週間は、大体8:00～8:30に病院に行き、その日若しくは前日にコンサルトが来た患者さんについて Fellow からメールを貰い、カルテで情報を集めて患者さんに問診や身体診察をしに行く、という流れでした。コンサルトですので、主科から何らかの質問があります。「これは〇〇(リウマチ科の疾患、SLE などなど)ではないのか」「とりあえずこの人に何が起きているのかももうわけがわからないから見てくれ」「腎機能が悪いからこの薬をどういう風に調節すればよいのか」といった質問が多かったように思います。それぞれの質問に答えるためには、それについての知識が必要なので、患者さんの所に行く前に、Up to Date や Pubmed, その他のデータベースなどで必要なことを調べてから行っていました。多様な膠原病疾患を見ることが出来、大変勉強になりました。また、コンサルトチームという特性上、最終的には膠原病とは全く関係のない疾患が診断として下されていくこともあり、膠原病疾患とその他の分野の疾患の鑑別、という私が学びたかったことについても多くを学ぶことが出来ました。

毎週金曜日はグラウンドラウンドという科全体での症例検討会のようなものがあり、毎週全く異なるテーマで色々な発表があり、とても楽しかったです。私も、コンサルトチームで受け持った患者さんについてプレゼンしました。

### 最後の1週間@外来での実習

ジョンズホプキンスには膠原病の主要な疾患を個別に扱うセンターが複数あるので、毎日午前と午後に違うセンターの違う先生につきました。具体的には、Sjogren center, Arthritis center, Myositis center, Scleroderma clinic です。SLE clinic もあるようでしたが、今回は見学のチャンスがありませんでした。日本での外来実習と言えば基本的に見学でしたが、ここまでの4週間コンサルトチームで色々な膠原病疾患を見てきた、という自覚があったので、ダメもとで「私も外来で何かしたい」という旨を各先生に伝えると、意外にも快諾していただき、各センターの各先生の外来でフォローアップの患者さんの話を聞き、診察を行ってカルテ記載を行う、という業務をおこないました。これまでの実習で何を問診すればいいのか、身体診察は何を行えばいいのか、のポイントはおさえられていたので、外来のばたばたした雰囲気の中でも大変充実した実習が出来ました。コンサルトチームにいるときと違って、その疾患に特化した外来ですので、その疾患の1<sup>st</sup> choice, 2<sup>nd</sup> choice の薬剤をどう使い分けて、どういった時にそれらの薬を薦めるのか、や臨床研究がどのように行われているのかを垣間見ることができ、また多くを学ぶことができました。診察の合間には、各先生からその分野での最新の知見や、診察の注意点、ポイントなどについて多くの説明をしていただき、とても勉強になりました。

今回の実習は膠原病について最新の知見を含め、多くの事を学ぶことが出来たのは勿論ですが、それ以上にアメリカの病院における医学生立場がどのようなものか身を持って体験でき、自分も同じ立場で責任を持って実習をできたこと、アメリカで「優秀な」医師として働くとはどういうことなのか、を学べたこと、等学んだことを挙げるときりがありません。本当に有意義でした。渡米前に期待していたよりも多くを学ぶことが出来、とてもよい刺激になりました。ホプキンスの Rheumatology の先生方は優秀なだけではなく、人格者で教育熱心の方も多く、私の質問に懇切丁寧に答えてくださったり、プレゼンなどの際にはめっちゃくちゃほめてくださったり、と本当に色々な事を教えていただきました。

最後になりましたが、今回のホプキンスでのクラークシップにあたり、丸山先生を始めとした国際交流室の方々、教務課の方々、奨学金を出していただいた大坪先生、東京大学、昨年のご自身の体験を元に多くのアドバイスを下さった松田先輩、現地でお世話になりました澤教授、加野先生を始めとします多くの鉄門出身の先生方、サポートしてくれた家族には大変感謝しています。ありがとうございました。